

公式

日本口腔ケア学会

認定資格 標準テキスト

3級・4級・5級 および 口腔ケア
アンバサダー

一般社団法人 日本口腔ケア学会 [編]

1級

2級

3級

4級

5級

口腔ケアアンバサダー

医歯薬出版株式会社

口腔ケア認定制度

目的

口腔ケアの知識、技術の普及、質の向上を通じて国民の福祉のために貢献することを目的とする。

1. 各々の知識・能力の程度により1級から5級ならびに指導者とする。アンバサダー制度は、別途、定めるものとする。
2. 認定においては公平、平等を期すため、学会単独でなく、特定非営利活動法人日本医学歯学情報機構に委託して、学会よりは適正数の試験委員を出し、上記法人の委員とともに審査に加わる。
3. 受験者は、日本口腔ケア学会会員とする。
4. 日本口腔ケア学会の学術委員会が認定資格の細則作成ならびに実施を担当する。
5. 各等級における認定の目安

口腔ケア指導者：各職域における口腔ケア指導者として適正と認める者を認定する。
(書類審査、口頭試問)

- 1級：各職域における口腔ケア学の発展に寄与したと認められる業績と今後この分野の発展への貢献を行いうる優れた人物を認定する。(書類審査、口頭試問)
- 2級：口腔ケア分野における一般的知識の他に最新の技術ならびに口腔ケアに関連した医学、歯科医学、看護学、法令など幅広い知識を有する者、各施設において職域を越えた管理者としての能力を有する者。(書類審査、筆記試験、口頭試問)
- 3級：各々の職域において所属する部門の口腔ケアリーダーとしてふさわしい知識を有する者を認定する。(書類審査、筆記試験またはCBT方式による試験)
- 4級：口腔ケアの疾患別、症状別の一般的知識を有する者を認定する。(筆記試験またはCBT方式による試験)
- 5級：口腔ケアに関する初歩的な用語、手技の知識を有する者を認定する。(筆記試験またはCBT方式による試験)

口腔ケアアンバサダー：口腔ケアについて介護福祉士や養護教諭など医療・福祉・栄養分野の学生などに必要な知識を認定する。(筆記試験またはCBT方式による試験)

出題基準

出題基準は、口腔ケアを実施するにあたり、どのような事項を理解しておかなければならないかを分野ごとに大・中・小項目に分けて記載しており、認定試験においてはこのなかより作問されます。

本テキストにおいては、出題テーマに従い作成しています。

I 医学	大項目	中項目	小項目
	1 内科学	A 内科診断学総論	a 呼吸機能 b 循環器機能（心電図など） c 血液検査 1) 血液成分 d 尿検査
		B 内科治療学総論	a 急性疾患 b 慢性疾患
		C 循環器系疾患	a 先天性心疾患 b 心臓弁膜症 c 虚血性心疾患 1) 狭心症 2) 心筋梗塞 d 高血圧と動脈硬化 e 心不全と不整脈
		D 呼吸器疾患	a 上気道疾患 b 気管・気管支疾患 c 肺疾患 1) 肺炎 2) 肺結核 3) 肺気腫 4) 肺癌
		E 膠原病・アレルギー・免疫疾患	a アレルギー疾患総論 b 喘息 c 膠原病総論 d 自己免疫疾患 e 免疫不全（エイズを含む）
		F 血液疾患	a 貧血 b 白血病 c 出血性疾患（血友病など）
		G 消化器疾患	a 食道・胃・腸疾患 b 肝・胆道疾患 c 膵疾患
		H 腎臓疾患	a 腎炎 b 腎不全 c その他の腎臓障害
		I 内分泌・代謝疾患	a 内分泌疾患 1) 甲状腺機能疾患

口腔ケアの定義について、正しい組合せはどれか。

- a 口腔ケアの解剖学的範囲は口腔内に限られる。
- b 口腔ケアはQOLの向上を目的とすべきである。
- c 無歯顎者には口腔ケアは適用されない。
- d 口腔ケアは歯科医師と歯科衛生士の業務独占である。
- e 口腔ケアのケアは看護、及び介護を主とした意味である。

(組合せ) ① a, b ② a, e ③ b, c ④ b, e ⑤ d, e

正解 ④

解説

- a 口腔ケアは口腔以外の咽頭、喉頭などを含めた広い意味で定義されている。
- b 正しい記述である。口腔ケアは「口腔の疾病予防、健康の保持・増進、リハビリテーションにより QOL の向上を目指した科学であり技術である」と定義されている。
- c 無歯顎者にとっても、義歯の清掃など口腔ケアは必要である。
- d 口腔ケアは医師、歯科医師、歯科衛生士はもとより、看護師、栄養士、言語聴覚士や介護福祉士など幅広い職種が協力する学際的分野である。
- e 正しい記述である。

問題 **1**

麻痺側の手で持つ歯ブラシの柄について、正しいものはどれか。

- ① 既製品のままだがよい。
- ② 細く軽くするのがよい。
- ③ 太く軽くするのがよい。
- ④ 細く重くするのがよい。
- ⑤ 太く重くするのがよい。

正解 ③

- 解説** ① 片麻痺のひとが自身で歯磨きをするとき、利き手が健側であればよいが、利き手が患側のこともあるため、既製品のままでは不便なことがある。
- ② 一般に細い柄の歯ブラシはつかみにくい。
 - ③ 一般に太めで、軽い柄の歯ブラシがつかみやすい。
 - ④ 一般に細く、しかも重い柄の歯ブラシは最もつかみにくい。
 - ⑤ 一般に重い柄の歯ブラシでは磨きにくい。

理解すべき事項

片麻痺のひとが最も把持しやすい大きさ、重さと形状の柄の歯ブラシを選び、指導することが大切である。一般に筋力が低下していることが多く、細かい運動が困難な場合には、軽くて少し太めの柄のものが把持しやすい。

Key Words

麻痺のあるひと、身体障害

I	基礎知識
II	歯磨き
III	うがい
IV	義歯について
V	口具
VI	体に障害や病気のあるひと
VII	う蝕(むし歯)と歯周病
VIII	出血
IX	口腔乾燥
X	摂食嚥下障害
XI	在宅
XII	その他

問題 **2**

キシリトールについて、正しい組合せはどれか。

- a キシリトールはミュータンス菌(むし歯菌)に対して殺菌作用がある。
- b 同量の砂糖を含む同じ大きさのクッキーでは、これにキシリトールを添加したものはう蝕(むし歯)を予防する効果が大きい。
- c キシリトール自体にはミュータンス菌を死滅させる作用はない。
- d キシリトールを甘味料として砂糖の代わりに用いれば、う蝕(むし歯)ばかりでなく歯周病の予防効果もある。
- e キシリトールは、ガムに添加すればう蝕予防効果があるが、コーヒーの甘味料として砂糖の代わりに使用しても効果はない。

(組合せ) ① a, b ② a, e ③ b, c ④ c, d ⑤ d, e

正解 ④

- 解説**
- a キシリトールは、5炭糖の糖質だが、ヒトも細菌もほとんど利用できない。したがって、この物質は細菌の発育を抑止する効果はあるが、死滅させる作用はない。
 - b う蝕は、ショ糖が存在し、それを原料として細菌が酸と多糖体を産生することで発生する。そのため、ショ糖が含まれているものにキシリトールを添加してもう蝕予防効果はない。
 - c キシリトールは、5炭糖の糖質であるが細菌やヒトでは利用されにくく、細菌の発育抑制作用はあるが殺菌作用はない。
 - d 砂糖の代わりにキシリトールを甘味料として使用すれば、ショ糖の摂取量が減り、歯垢中の細菌が歯面に付着するためのデキストランの産生が抑制される。そのため、歯垢は落としやすくなり、適切な口腔ケアを行うことで歯周病も予防できる。
 - e キシリトールの効果は、ガムに入れようとコーヒーに入れようとその効果に変わりはない。キシリトールを砂糖の代わりに使用すれば、ショ糖の使用量が減り、う蝕のリスクを減らすことができる。

理解すべき事項

キシリトールは5炭糖の糖質で、細菌や動物にはこれを分解する酵素がないため利用されにくい。また、砂糖と同程度の甘味があり、甘味料としてはダイエットに利用されている。したがって、キシリトールはショ糖の代わりに使用されることによりショ糖の使用量を減らし、う蝕や歯周病

I	基礎知識
II	歯磨き
III	うがい
IV	義歯について
V	口臭
VI	体に障害や病気のあるひと
VII	う蝕(むし歯)と歯周病
VIII	出血
IX	口腔乾燥
X	摂食嚥下障害
XI	在宅
XII	その他